

平成 30 年 3 月 15 日に若林区文化センターで「平成 29 年度 SSH 学術研究発表会」が行われました。その様子をお伝えします。

今回の発表は各ゼミから一組選出された代表による発表であったため、研究がとても質の高いものであっただけでなく、発表の方法にも聴衆の興味を引くような、工夫を凝らしたプレゼンを行っていた。特に生物ゼミでは発表の最初に某テレビ番組を模した演出を入れたり、「メビウスの輪」の研究を行った数学ゼミでは実際に巨大なメビウスの輪を用いて実践をしたり、地学ゼミでは班員同士の掛け合いの中で研究内容を説明したりと、非常に『一高生らしい』発表が繰り広げられたと言える。

また、すべての発表に対し聴衆の生徒からいくつかの質問が飛んだ。発表者もほとんどの質問に滑らかな回答を返すことができおり、研究内容の深さを伺わせるものだった。しかし、質問者が決まった人たちに限定されてしまっていたり、質疑応答の時間に発表者のミスを指摘して非難したりと、まだ幾つか残念な部分が見受けられ、生徒全体として『健全な批判力』の向上が必要だと感じられた。

生徒からは、一年生から「来年からの研究の参考になった」「このような場所で発表できるような研究にしたい」など、これからの学術研究の一つの指針になっているようだった。二年生からは二年間の研究を振り返って「自分の能力の伸びを実感した」「この経験を活かしたい」という声が多くみられた。

総括して、素晴らしい研究成果が見られたのに対して、改善点も浮き彫りになった発表会であった。来年の学術研究活動では、研究・発表の能力だけでなく、他者の研究を批評する力を向上させ、互いに切磋琢磨して今年より優れた発表会になるよう努力してほしい。



【平成 29 年度 SSH 学術研究発表会 各賞の受賞一覧】

- | | |
|------------------|--|
| 鈴木陽一(東北大学教授) 賞 | 「足の神秘 ～扁平足の改善で健康を手に入れよう!～」 保健体育ゼミ |
| 須藤彰三(東北大学教授) 賞 | 「Lifetime and Velocity Measurement of Cosmic Ray Muons」 物理ゼミ |
| 清水 浩(慶応大学名誉教授) 賞 | 「出る杭は打て、垂直に打つ杭は役に立つ」 地学ゼミ |
| 木村晃彦(京都大学教授) 賞 | 「酸による大腸菌の増殖抑制作用に関する研究」 生物ゼミ |
| 枝松圭一(東北大学教授) 賞 | 「***座のあなたは… ～テレビの星占いの順位から見えるメディアの矛盾～」 情報ゼミ |
| 虫明 元(東北大学教授) 賞 | 「高齢者の孤立と交流 - 私たち、高齢者相互のアプローチ」 家庭ゼミ |
| 川上伸昭(宮城大学学長) 賞 | 「Relation between language and popular SNS」 英語ゼミ |

↓積極的に質問を行う一高生



仙台一高のSSH活動第一期終了と加藤校長のご退職を記念して、審査員の先生方から特別賞を頂きました。加藤校長、今までありがとうございました。



【生徒投票の結果】

質問項目	1位	2位	3位
発表内容が最も優れていた発表	地学ゼミ	国語ゼミ	生物ゼミ
聴衆を最も惹き付けた発表	地学ゼミ	生物ゼミ	英語ゼミ
最も“一高生”らしい発表	生物ゼミ	地学ゼミ	英語ゼミ
継続研究してみたいと思う発表	数学ゼミ	化学ゼミ	国語ゼミ

以下、生徒の感想を一部抜粋して掲載します。

～1年生編～

- 14の各ゼミの代表ということで、非常に分かりやすく面白いものが多かった。様々な視点から見た考察や常識にとらわれない発想を多く見ることができたので、これからの学術研究に活かしていくことが出来る充実した時間だった。
- 時間的な理由で研究を最後まで行ったり、細かいところまで実験することが出来ていない班が多く、私たち一年生は二年生よりも長い期間、ゼミ毎の研究ができるので、早めに行動してより細かいところまで行っていきたいと思いました。
- 多くのグループが東京研修を有効に活用できていて、そこからの研究の発展が見られたので、私たちもしっかり計画を立てていきたいと思う。今回の発表を聞いて、しっかりと自分の意見を持って研究することでより充実した研究になると感じた。
- 代表グループというだけあって、とてもレベルの高い発表が聞けた。また内容だけでなく発表の仕方や態度、質問への答え方などいろいろ参考にできると思った。
- 活発な意見交換、質問が行われていて、よかったと思う。また、中間発表などで聞いていた発表もあったが、以前より分かりやすく、内容も深くなっていると感じた。
- どのゼミの発表もとても聴衆を惹くような内容となっていた。自分が全く思いつかないようなアイデアが用いられていてすごいと思った。これからの学術研究に今日の発表会や教授の話を参考にしたいと思った。
- たくさんの分野の発表を聞くことによって自分の視野が広がったのではないかと思う。これらの発表を見たことによって、これからの自分たちの発表にいかしていき、さらに自分たちの発表が来年このような場で発表できるようになるまで素晴らしいものになるようにこれからは東京研修を充実したものにしていきたいと思う。

～2年生編～

- どの班も深いところまで研究しており、充実した時間を過ごすことが出来た。1年間を通しての学術研究では、自分の成長を実感することが出来た。
- みんなとてもレベルの高い発表だったと思います。数多くの人たちの前で発表するのはとても緊張すると思うのにレベルの高い話ができるのはすごいと思います。
- すべてのゼミが素晴らしい発表をしていた。興味がそそられる発表も多々あり、この一年間の研究への視野が広がった。この一年の活動はとても有意義で楽しいものだった。
- 様々な発表を聞いて、過去や明らかになっている事実を改めて疑ったり参考に調べたりすることで得られたりするものも多くあるのだと思った。学術研究を通して他人の意見を取り入れながら深く考えられるようになった。
- 内容が聴衆の興味を引くものであり、そしてスライドも初めて見た人にも分かり易いつくりになっていました。発表者の人たちは発表の仕方も上手だなあと感心しました。個人的には昨年の発表よりもレベルが高かったように感じました。
- 今日の発表会については、各ゼミの代表ということでどれも興味深い内容であったが、質疑応答の時間が少し短くてこの研究の意義が少しないものになっていたのでないかと思った。学術研究の活動全般については、自分の興味のあることについて時間をかけて研究することができたので、とても充実したものであった。
- 学術研究を通して、様々な分野に触れることができ、研究自体に興味を持つことができました。今日の発表会では、自分自身の反省点がたくさんあるので、次回どこかで発表する機会があった際は、それをクリアできるようになっていたら良いと思います。

～最後に～

このSR Timesの発行を持って平成29年度の学術研究委員の活動は終了いたします。今までありがとうございました。

さて、様々なところで「学術はクソ！」などという悲しい言葉を聞きます。そんなことないよ！本気で取り組めば必ず得るものがあるよ！と言いたいですね。72回生の諸君にはぜひ全力でSSHに取り組んでほしいです。

あと…これ…もっと読んでほしいな…

